

松尾倶楽部での講演会報告

長野大学学長 小林淳一（11 組）

関東同期の世話役・上原昇君（2 組）の計らいで、本講演会に 65 期メンバー 5 名が参加してくれました。（メンバー顔触れは 7 月 7 日付けの山極時生君（10 組）のレポートを参照ください）

久しぶりにお目にかかって、近況や昔の話もできました。

私の講演は、松尾倶楽部の代表幹事である近藤正昭氏（69 期）からご依頼があり、それをお引き受けする形で実現しました。

講演では、教員の教育・研究力によって大学が成り立っていることはもちろんですが、一方、社会に認められる大学になるためには、大学が組織として機能しなければならないことを強調しました。

一方、これからの教育のあり方にも触れました。

高度成長から低成長に移ることにより、企業で求める人材は、大きく変わりました。

かつては、組織の一員として与えられた仕事をしっかり行うことで充分企業に貢献できました。しかし今は違います。仕事は上から降っては来ません。自分が置かれた環境の中で、社会の動きや顧客ニーズを的確に捉え、新たなビジネスモデルを創造、提案し、自ら実践することによってはじめて企業に貢献することになります。

しかしそれはそう簡単ではありません。やり遂げる力、周りの人を説得し一緒に行う仲間を作っていくリーダーシップ力が求められます。従って、学生に対しては、このことを強調し大学での学びの中で力を蓄えるように話をしています。

幸い長野大学の学生は、主体的に学ぶ力があり、本学の教育プログラムの中で実践してくれています。彼らが将来様々な分野で活躍してくれると確信していると説明し話を終えました。



講演する筆者（松尾倶楽部事務局提供）

（2025 年 7 月 8 日記）

以上